

(様式1)

県立高校指定校事業（令和7年度指定） 3年間計画書

学 校 名	相模田名 高等学校 (㊤・定・通)	校 長 名	黒川 裕樹
指定名	教育課程研究開発校（シチズンシップ教育）		
研究主題	Team TANA for SAGAMITANA Development Goals をテーマに3年間を通して社会的・職業的自立に向けたキャリア教育を推進し、自らの選択に自信と責任を持てる生徒、コンフィデントスチューデントを育成する。		
3年間の目標 （3年後のめざすべき姿）	本校の教育目標である豊かな心を持ち、次代をたくましく生きぬく知識と能力を培うという本校の教育目標に基づき、自ら考え判断し、行動できる能力の育成を目指す。そのために、自信を高め、社会的・職業的自立を図り、社会に貢献する人材を育成する。1年では課題意識を身に付け、2年時では、地域に出て活動することで自己有用感を高める。3年時では、活動で得られた知識や課題意識を、自身のキャリア形成につなげることを目標とする。		
3年間の 研究内容	<p>(1) 研究主題の設定理由とこれまでの本校における取組</p> <p>これまで全教科でシチズンシップ教育の検証授業を実践した。全職員が共通の目標のもとで授業を構成できるよう、共通研究シートを年度ごとにブラッシュアップし、『シチズンシップ教育を通して生徒に身に付けさせたい力』を明確化させた。各教科がシチズンシップ教育をテーマにした研究授業を実施した。国語（現代の国語）、公民（公共）、数学（数学Ⅱ）、保健体育（保健）については公開研究授業を実施、互見した。また、生徒が、授業を通してどのような力を身に付けたかを実感できるよう、シチズンシップ教育に関するアンケートを作成し、事前・事後で比較した。さらにそのシートをシチズンシップ教育の効果測定シートとして活用して、結果を分析し、課題を見える化することで授業改善に生かした。</p> <p>本校は、地域連携を学校の特色の1つとしており、キャリア教育につなげている。コロナ禍以降、地域連携活動は縮小傾向にあったが、活動事業を整理しながら、キャリア教育の一環として再活性化する。この地域連携活動をシチズンシップ教育の一つとしてとらえ、社会的課題を考える機会とする。また、活動を通して、地域で活躍する機会を通して自信を深めることで、自らのキャリア形成につながるよう職業的自立を図るとともに、政治参加や経済、法に関する選択など社会的課題の解決につながるよう社会的自立を図る。これを共通の相模田名高生の成長目標（SAGAMITANA Development Goals）として設定し、全教職員が生徒とともに「チーム田名」として取り組むことを研究主題とした。</p> <p>(2) 研究の内容</p> <p>地域連携活動を活発化させる。本校の地域連携活動は、社会福祉協議会と連携したボランティア活動、相模原警察と連携した女子バスケットボール部のココロコメット、地域の小中学校との交流であるタナリンピックや絆プロジェクトなどの活動がある。1・2学年時において、このような活動に参加する機会を増やすことが重要である。自分にできることや社会的な課題を実感できる活動を通して、政治参加や社会制度を考える意識、態度を身に付けさせる。3学年では、「政治・経済」を全員履修科目として設定しており、具体的な社会的課題について学習を深めさせる。それに加え、全職員による全教科型シチズンシップ教育検証授業を継続することにより、より多角的に社会的課題についての学習を深めることで社会的・職業的自立を図り、自らの選択に自信と責任を持った主権者としてのキャリア形成につなげる。</p> <p>(3) 成果の検証方法及び成果指標</p> <p>効果測定シート30項目を学年ごとの成長目標（Development Goals）として整理、再構築する。活動に参加した生徒に対し、アンケート形式で回答することにより事前・事後の変化を見取る。</p> <p>（例）1学年「思考・課題発見型」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分が住んでいる地域の問題（例えば、少子高齢問題）について関心を持ち、解決に向けて考えたことがある。</li></ul> <p>（例）2学年「経験+課題解決型」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の住む地域で社会貢献やボランティア活動に参加したことがある。</li><li>・社会問題（例：少子高齢問題、教育の格差など）に対して、自分にはできることがある。</li></ul> <p>（例）3学年「発展型」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の将来のキャリアを選ぶ際に、興味や適性だけでなく、社会状況も重要な要素である。</li></ul>		

研究計画の概要	令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シチズンシップ教育プロジェクトによる「学校全体としての体制づくり」（5月）</li> <li>・各地域連携活動、ボランティア活動開始（5月～）</li> <li>・キャリアGによる「地域探究」の年間計画の検討（6月）</li> <li>・教職員対象シチズンシップ教育研修実施（6月）</li> <li>・全教職員、全校生徒対象シチズンシップ教育事前調査（6月）</li> <li>・公開研究授業（10月）</li> <li>・全教科型シチズンシップ教育検証授業実施（～1月）</li> <li>・地域連携プロジェクト生徒実践報告会にて生徒による実践報告（2月）</li> <li>・シチズンシップ教育の体制の検証・見直し（3月）</li> <li>・全教職員、全校生徒対象シチズンシップ教育事後調査（3月）</li> </ul>
	令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新着任者対象シチズンシップ教育研修実施（4月）</li> <li>・全教職員、全校生徒対象シチズンシップ教育事前調査（4月）</li> <li>・各グループでのシチズンシップ教育に位置付けた活動等実施調査（5月）</li> <li>・公開研究授業（10月）</li> <li>・全教科型シチズンシップ教育検証授業実施（～1月）</li> <li>・地域連携プロジェクト生徒実践報告会にて生徒による実践報告（2月）</li> <li>・シチズンシップ教育の体制の検証・見直し（3月）</li> <li>・全教職員、全校生徒対象シチズンシップ教育事後調査（3月）</li> </ul>
	令和9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新着任者対象シチズンシップ教育研修実施（4月）</li> <li>・全教職員、全校生徒対象シチズンシップ教育事前調査（4月）</li> <li>・各グループでのシチズンシップ教育に位置付けた活動等実施調査（5月）</li> <li>・公開研究授業（10月）</li> <li>・全教科型シチズンシップ教育検証授業実施（～1月）</li> <li>・地域連携プロジェクト生徒実践報告会にて生徒による実践報告（2月）</li> <li>・シチズンシップ教育の体制の検証・見直し（3月）</li> <li>・全教職員、全校生徒対象シチズンシップ教育事後調査（3月）</li> <li>（3年間の振り返りと相模田名高等学校としての新たな取組の検討）（3月）</li> </ul>
研究体制	<p>各グループ、各学年から1名で構成したプロジェクトチームで研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム開発Gは、全教科型シチズンシップ教育検証授業を担当する。共通の研究シートを作成し、共有方法を含め、教科横断的な取組になるよう体制を工夫する。</li> <li>・キャリアガイダンスGは、これまでの総合的な探究の時間における「キャリア探究」を、キャリア教育の一環とした「地域探究」へと転換し、探究活動の内容の検討、実施計画を立てる。</li> <li>・生徒活動支援Gは、部活動や委員会を活用する。また、学校行事を通したシチズンシップ教育を計画する。</li> <li>・生徒指導Gは、校内でのルール・マナーについての啓発を継続し、思いやりのある豊かな心を育む。</li> <li>・広報情報・管理Gは、地域連携活動を生徒に広めるとともに、地域にも発信する。また、職員間の情報共有方法について検討する。</li> <li>・学校管理・運営Gは、地域連携とボランティア活動の窓口であるとともに、毎年2月におこなわれる地域連携報告会を主催する。</li> <li>・各学年は、シチズンシップ教育プロジェクトチームからの案を各学年にて実施計画を立てる。</li> </ul>	
その他特記事項		

